

第四次郡山市食育推進計画
[令和5（2023）年度～令和7（2025）年度]
最終評価報告書

令和8年（2026）年3月
郡山市

第四次郡山市食育推進計画最終評価

評価の目的

本市は、「国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむ」ことを目的として、2005（平成 17）年 6 月に制定された食育基本法に基づき、2009（平成 21）年に「第一次郡山市食育推進計画」、2013（平成 25）年に「第二次郡山市食育推進計画」、2018（平成 30）年に「第三次郡山市食育推進計画」を策定し、現在は「第四次郡山市食育推進計画」により食育を推進している。

今回の評価は、「第四次郡山市食育推進計画」の目標に対する実績値や取り組みの評価を行い、これらの評価結果をもとに、課題等を整理し、次期計画へ反映させることを目的に実施する。

評価方法

各目標項目について、計画策定時のベースライン値（2021（令和 3）年度健康づくり・食育に関するアンケート結果）と直近の値（2024（令和 6）年度食育に関するアンケート結果）を比較し、目標に対する数値の動きについて分析・評価する。

◎評価は A・B・C・D・E の 5 段階評価とする。

評価シートの指標の評価・分析には、直近の実績値が目標に達したか、達していないかを記載し、

目標に達していない項目については、目標に向けて改善した、変わらない又は悪化した等を簡潔に記載する。

※計画策定時のベースライン値と直近値の比較に当たっては、原則として有意差検定*1 を行う。

※検定を行わない指標の B・D の評価区分は、相対的に 5% 以上の変化を目安として評価する。

評価区分	判定基準
A	目標値に達した
B	現時点で目標値に達していないが、改善傾向にある（片側 P 値*2(vs. ベースライン) < 0.05)
C	変わらない（片側 P 値(vs. ベースライン) ≥ 0.05)
D	悪化している（片側 P 値(vs. ベースライン) < 0.05)
E	評価困難

* 1 有意差検定：アンケートの集計の結果から、ある 2 つの値の間（ここではベースライン値と直近値）に統計的に意味のある差があるかどうかを判断するもの。

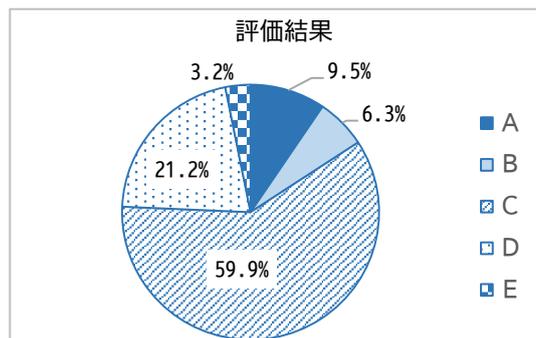
* 2 P 値：観察された差が「偶然である確率」。P 値 < 0.05 (5% 未満) の時に有意差がある（偶然とは考えにくい差がある）とする。A~D に正しく判定することを目的に片側検定（片側 P 値）を行う。

評価結果

全 29 項目について、その達成状況を評価・分析した結果は、A が 3 項目 (9.5%)、B が 2 項目 (6.3%)、C が 15 項目 (59.9%)、D が 8 項目 (21.1%)、E の評価困難が 1 項目 (3.2%) であった。

各目標値の評価の詳細については、評価シート 1 から 24 のとおり。

評価区分	該当項目数	割合 (%)
A	3	9.5
B	2	6.3
C	15	59.9
D	8	21.1
E	1	3.2
計	29	100



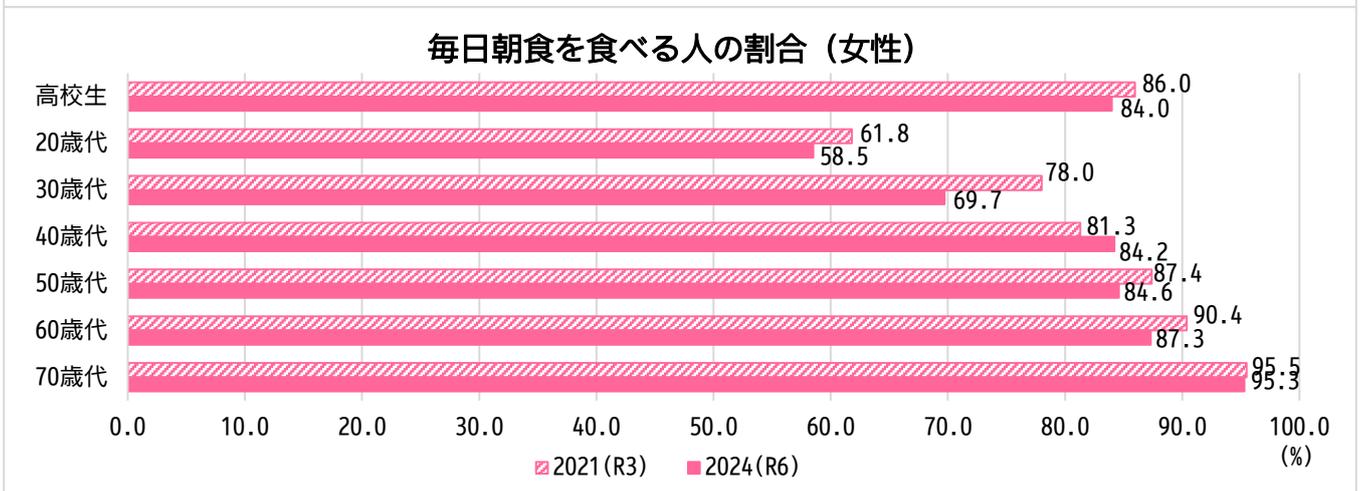
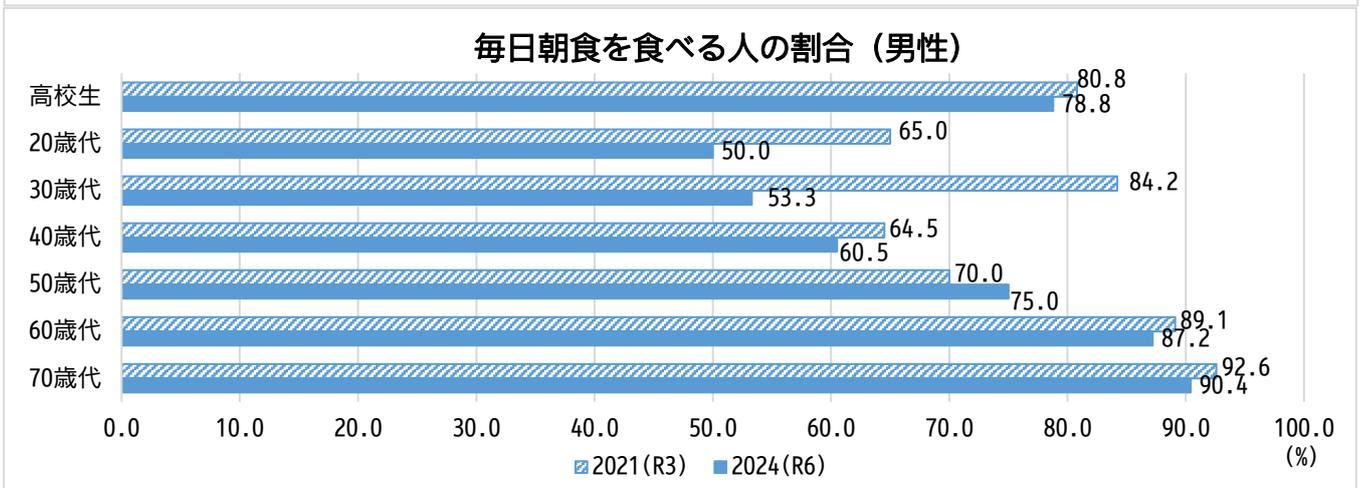
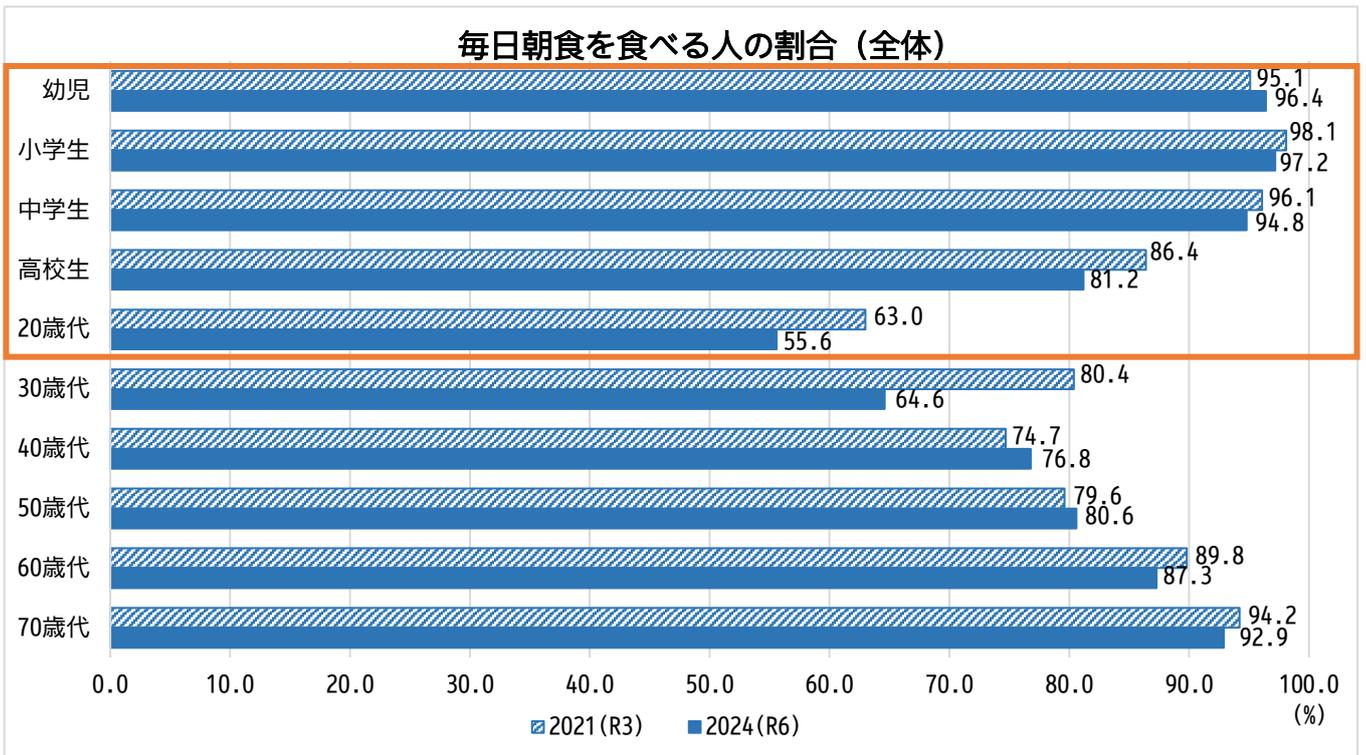
第四次郡山市食育推進計画における目標・評価項目一覧

推進の方向性	シート No	項目	策定時 ^A -スライ 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価	計画 ページ	調査名	2024(R6) 質問票		
1 家庭・地域における食育の推進	3	主食・主菜・副菜を1日2回以上ほとんど毎日食べている人の割合の増加	成人	47 %	47 %	50 %	C	22	アンケート	成人-問9	
	4	毎日野菜をほとんど食べない人の割合の減少	成人	45.6 %	43.9 %	40 %	C	22	アンケート	成人-問11	
	5	毎日果物をほとんど食べない人の割合の減少	20歳代～50歳代	38.4 %	41.9 %	35 %	C	22	アンケート	成人-問12	
	6	塩分を取り過ぎないように意識している人の割合の増加	成人	72.2 %	71.3 %	75 %	C	14	アンケート	成人-問14	
	7	子ども（幼児）に時間と量を決めておやつを与えている保護者の割合の増加	1～4歳児の保護者	53.3 %	59.2 %	60 %	C	13	アンケート	母子-問11	
	8	外食や食品購入時に栄養成分表示を参考にしている人の割合の増加	中学生～成人	57.6 %	54.4 %	60 %	D	16	アンケート	中学生-問18、 高校生-問17、 成人票-問20	
	9	栄養成分表示をしている施設の割合の増加		78.9 %	69.5 %	85 %	D	16	アンケート	飲食-問2、 施設-問2	
	10	健康に配慮したメニューの提供をしている施設の割合の増加		54.9 %	58.1 %	60 %	C	16	アンケート	飲食-問3、 施設-問3	
	11	自分の適正体重を認識している人の割合の増加	成人	79.5 %	79.8 %	90 %	C	14	アンケート	成人-問1	
	12	肥満の人の割合の減少	成人男性 成人女性	34.8 % 21.6 %	32.2 % 20.2 %	30 % 18 %	C C	14	アンケート	成人-問1	
	13	やせの人の割合の減少	高校生～20歳代	19.1 %	20.3 %	15 %	C	14	アンケート	高校-問1、 成人-問1	
	14	健康維持のために食生活を心がけている人の割合の増加	成人	74.9 %	71.4 %	80 %	D	14	アンケート	成人-問3	
	15	ゆっくりよく噛んで食べる人の割合の増加	成人	45.6 %	47.6 %	55 %	C	15	アンケート	成人-問15	
	16	朝食または夕食を週4日以上家族と一緒に食べる人の割合の増加	成人	73.8 %	71.0 %	90 %	C	15	アンケート	成人-問16	
	17	食育推進ボランティアの活動回数の増加	2024(R6)年度未確定	25回	54回	45回	A	16	実績		
	1 家庭・地域における食育の推進 2 保育所・幼稚園・学校における食育の推進	2	毎日朝食を食べる人の割合の増加	幼児	95.1 %	96.4 %	100 %	C	19	アンケート	母子-問4
	小学生			98.1 %	97.2 %	100 %	D	児童生徒の朝食 摂取状況調査			
中学生	96.1 %			94.8 %	100 %	D	児童生徒の朝食 摂取状況調査				
高校生	86.4 %			81.2 %	90 %	D	アンケート	高校-問7			
20歳代	63 %			55.6 %	85 %	C	アンケート	成人-問8			
2 保育所・幼稚園・学校における食育の推進	18	栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数の増加	2024(R6)年度未確定	-回	月7回	月12回	E	20	実績		
	19	学校給食における郡山産農産物の使用割合の増加		14.6 %	17.0 %	20 %	B	19	実績		
	20	郡山産米「あさか舞」による米飯給食実施回数（週）の増加		3.1回	3.5回	4回	B	20	実績		
3 食育推進運動の展開	1	食育に関心がある人の割合の増加	成人	78.4 %	80.5 %	90 %	C	22	アンケート	成人-問5	
4 食と農の連携や環境と調和のとれた持続可能な食育の推進	21	農林漁業体験を経験したことがある人の割合の増加	成人	62.9 %	69.6 %	65 %	A	23	アンケート	成人-問23	
	22	産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ人の割合の増加	成人	66.1 %	57.9 %	70 %	D	24	アンケート	成人-問21	
	23	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ人の割合の増加	成人	51.6 %	37.2 %	55 %	D	25	アンケート	成人-問22	
5 安全・安心な食生活からの食育の推進	24	収去検査の違反件数	2024(R6)年度未確定	0件	0件	0件	A	26	実績		

※アンケート：2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート(策定時^A-スライ)、2024(R6)食育に関するアンケート(現状値)
 ※実績：2021(令和3)年度事業実績、2024(令和6)年度事業実績

第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート2(グラフ)

問 朝食を食べる頻度はどのくらいですか。(母子票_問4、高校生_問7、成人票_問8)

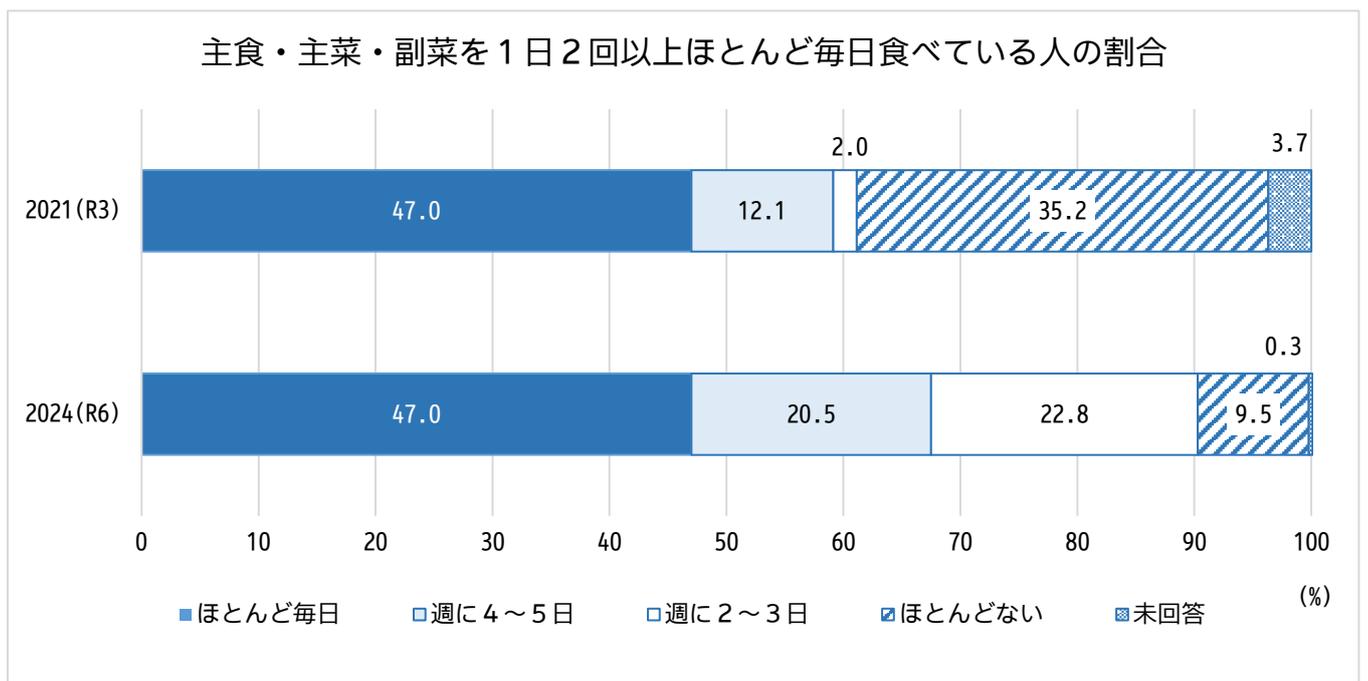


第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート 3

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	主食・主菜・副菜を1日2回以上ほとんど毎日食べている人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
主食・主菜・副菜を1日2回以上組合せて食べている成人の割合	47%	47%	50%	C
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると有意な変化は認められず、目標値に達していない。(片側P値=0.500)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・出前講座 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・食生活サポーターによる活動(食生活の講話・調理実習等) ・小学1年生とその保護者へ食育のチラシ配布 ・こおりやま食の健康応援店事業 ・ベジライフ推進事業 			
今後の課題	主食・主菜・副菜をそろえた食事(バランスのよい食事)の周知啓発は引き続き必要であり、20歳代~50歳代では、60歳以上の年代と比較すると割合が低いことから(アンケート結果p23)、若い世代・働き世代への働きかけや、外食や中食においてもバランスのよい食事をしやすい食環境づくりが必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

問 食事で主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが1日に何回ありますか。(R3)

問 食事で主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが1日2回以上あるのは、週に何日ありますか。(R6)(成人票_問9)

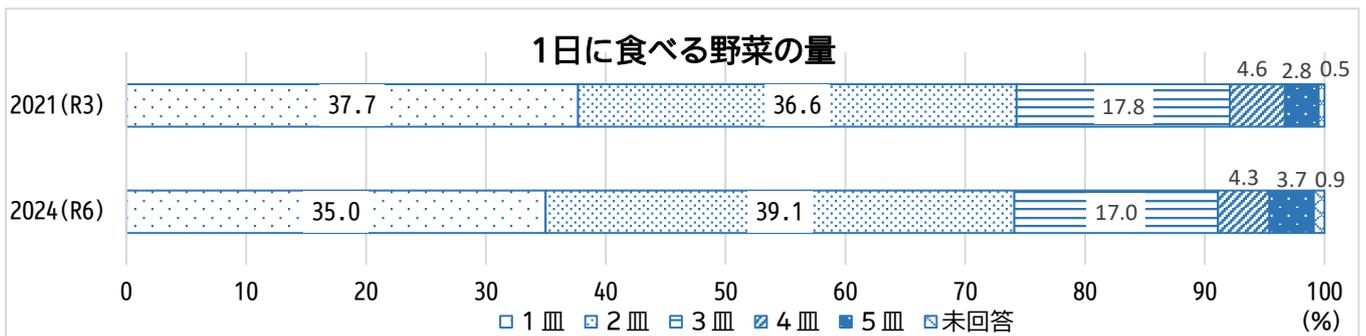
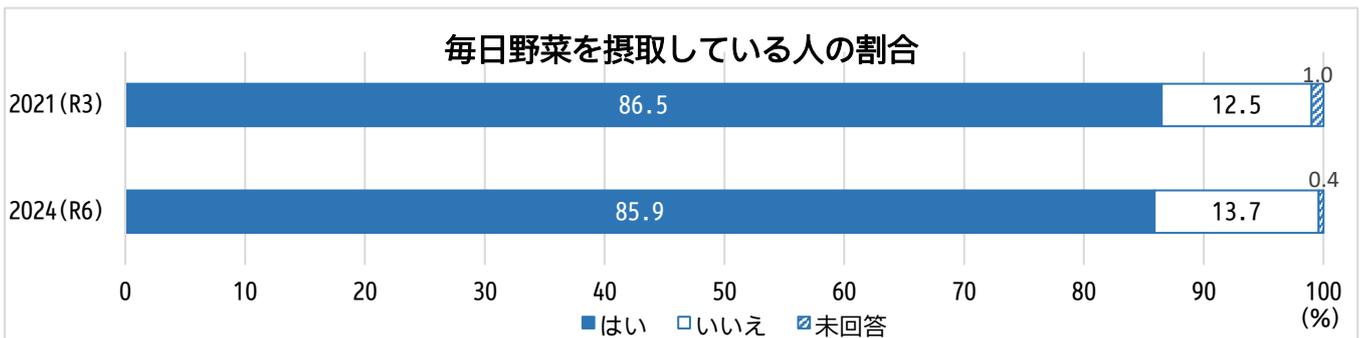


第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート 4

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	毎日野菜をほとんど食べない人の割合の減少			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
毎日野菜をほとんど食べない人の割合	45.6%	43.9%	40%	C
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると有意な変化は認められず、目標値に達していない。(片側P値=0.229)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・出前講座 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・食生活サポーターによる活動(食生活の講話・調理実習等) ・こおりやま食の健康応援店事業 ・ベジライフ推進事業 			
今後の課題	<p>目標とする小鉢で5皿以上摂取できている人は、3.7%と低く、野菜の摂取不足が課題である。(アンケート結果p25,26)</p> <p>現在実施している働き世代へのアプローチを継続し、その他の年代に対しても野菜の摂取方法等の周知や自然に野菜が摂取できる食環境づくりの取組みが必要である。</p>			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

※毎日野菜をほとんど食べない人：アンケート調査で「毎日の食事で野菜を食べていますか」の設問に「いいえ」と回答した人と、「はい」と回答した人のうち1日の摂取量が「1皿(約70g)」の人の合計。

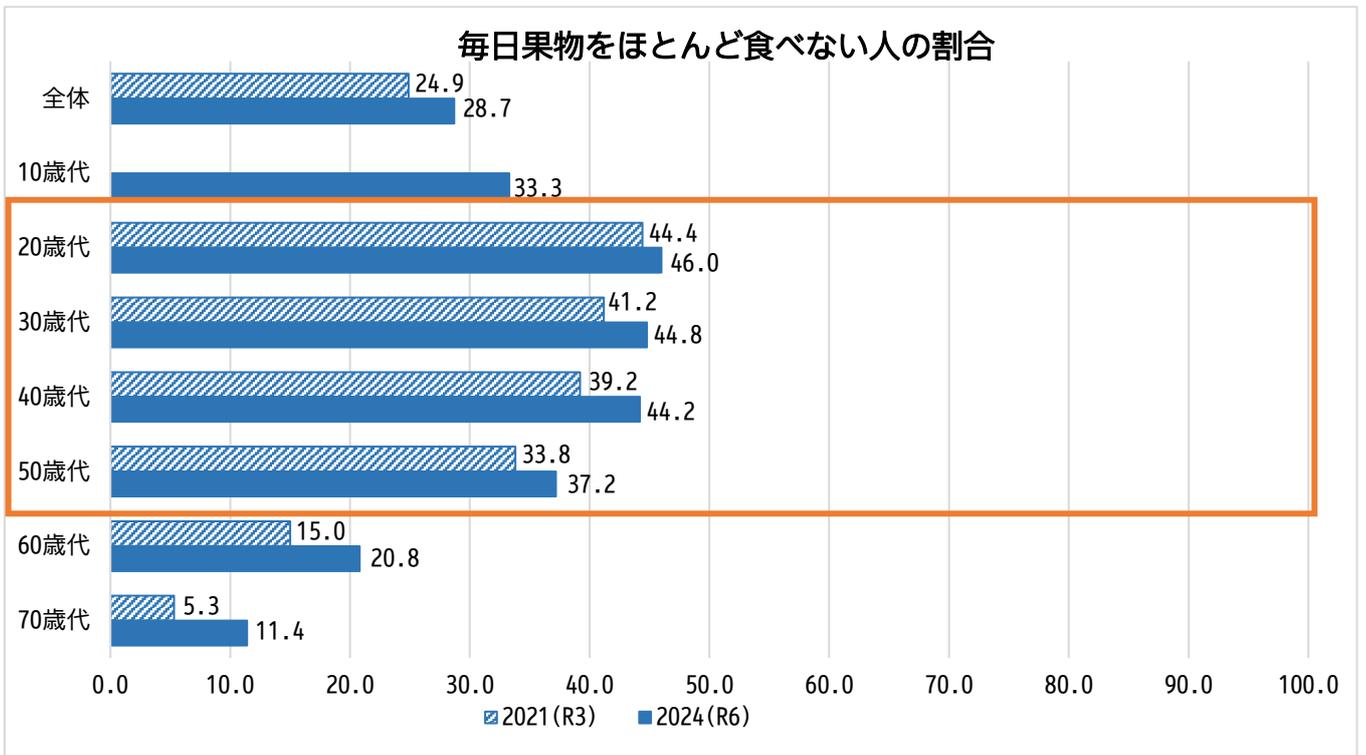
問 毎日の食事で野菜を食べていますか。(成人票_問11)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート 5

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	毎日果物をほとんど食べない人の割合の減少(20～50歳代)			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
毎日果物をほとんど食べない人の割合	38.4%	41.9%	35%	C
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると有意な変化は認められず、目標値に達していない。(片側P値=0.136)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・出前講座 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・食生活サポーターによる活動(食生活の講話・調理実習等) 			
今後の課題	毎日果物をほとんど食べない人は増加しており、100g未満の摂取者は26.6%と高く、果物の摂取不足が課題である。(アンケート結果p27,28) 果物摂取のメリットや1日の適正量について、引き続き周知啓発を図る必要がある。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

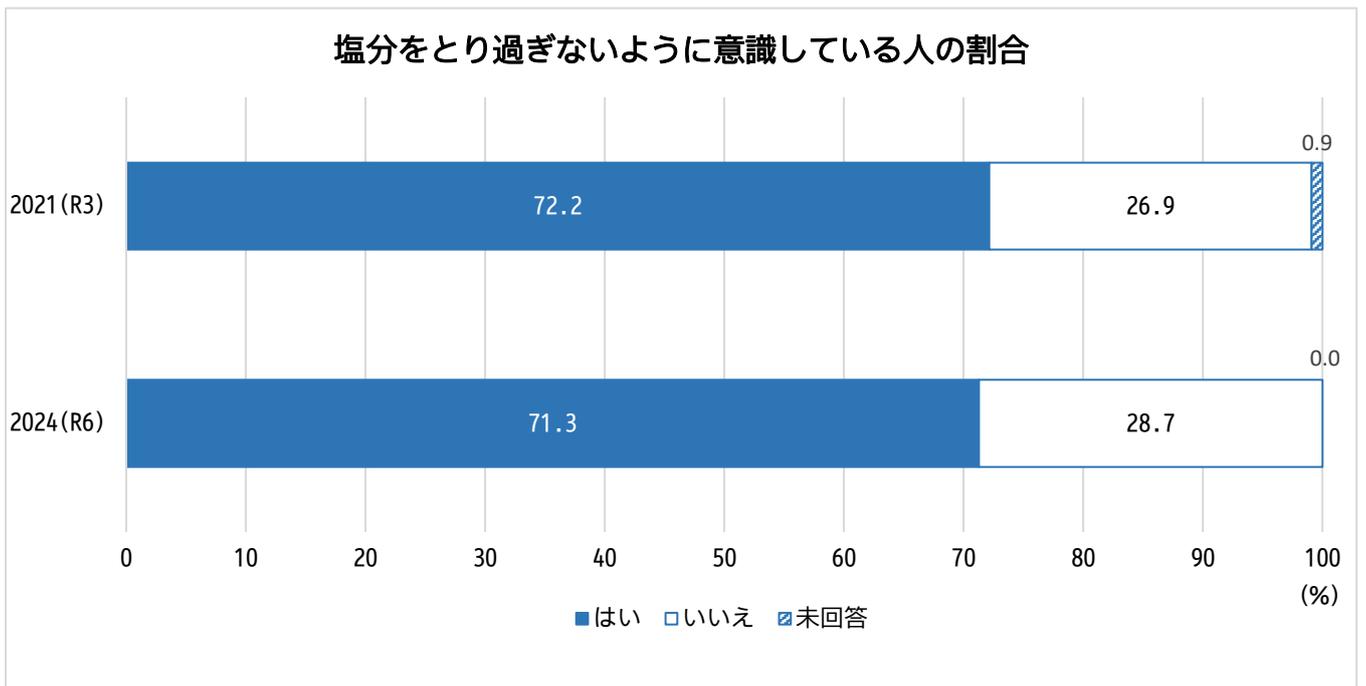
問 果物を食べる頻度はどのくらいですか。(成人票_問12)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート 6

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	塩分をとり過ぎないように意識している人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
塩分をとり過ぎないように意識している成人の割合	72.2%	71.3%	75%	C
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると有意な変化は認められず、目標値に達していない。(片側P値=0.332)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・出前講座 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・食生活サポーターによる活動(食生活の講話・調理実習等) ・こおりやま食の健康応援店事業 ・ベジライフ推進事業 			
今後の課題	塩分をとり過ぎないようにする意識は高まっているが、高校生から20歳代の若い世代の意識が低いことが課題である。(アンケート結果p54,p78) 将来の生活習慣病予防のためには、若い世代への減塩について積極的な取組みが必要であり、個人の取組みを促すための働きかけに併せ、自然に減塩ができる食環境づくりを推進することが必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

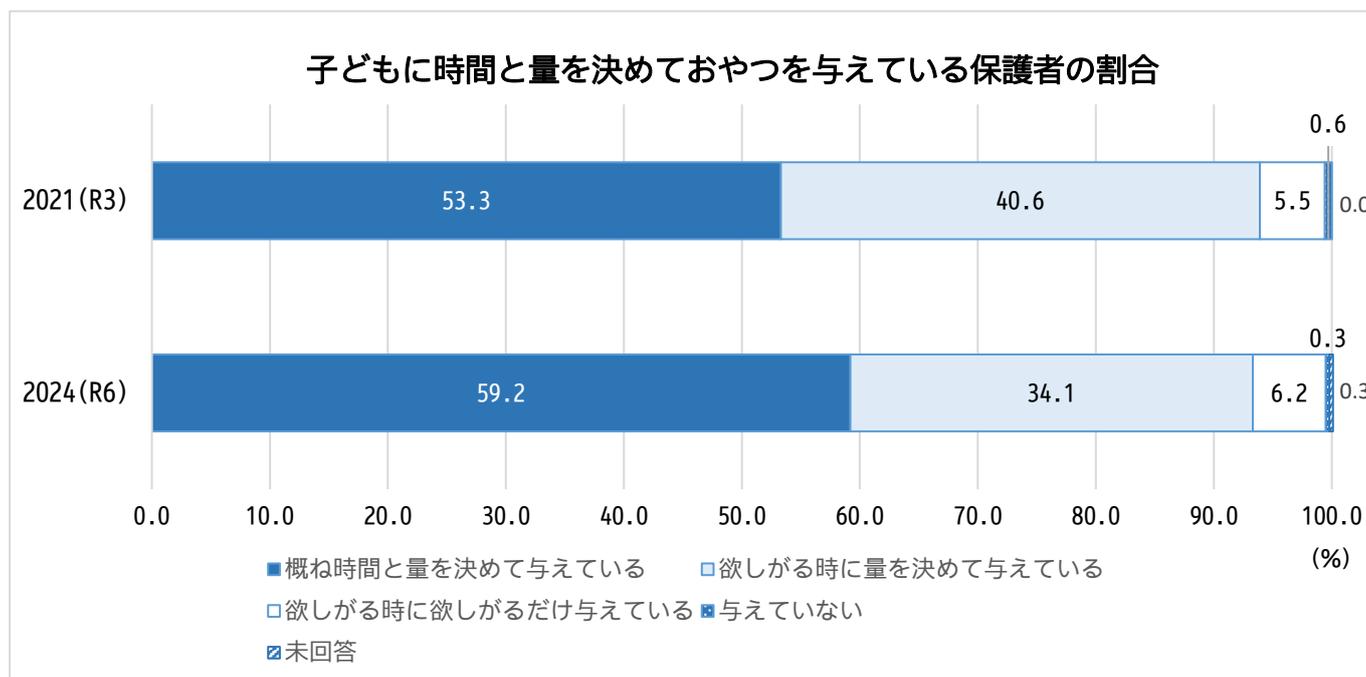
問 食事等で塩分をとりすぎないように意識していますか。(成人票_問14)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート 7

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	子どもに時間と量を決めておやつを与えている保護者の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
子どもに時間と量を決めておやつを与えている保護者の割合	53.3%	59.2%	60%	C
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると有意な変化は認められず、目標値に達していない。(片側P値=0.054)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食教室 ・1.6歳児健診・3歳児健診時の栄養指導、リーフレットの配布等 ・食育推進ボランティア活動 ・食生活サポーターによる活動(食生活の講話・調理実習等) ・小学1年生とその保護者へ食育のチラシ配布 ・各歯科保健事業での栄養指導・相談、チラシ配布 			
今後の課題	約3割の保護者がおやつの時間と量を決めて与えていないことから、肥満や虫歯の原因になりにくいおやつの量や与え方について、各種活動をととして継続した周知啓発が必要である。			
担当所属	こども部こども家庭課、保健福祉部保健所健康づくり課			

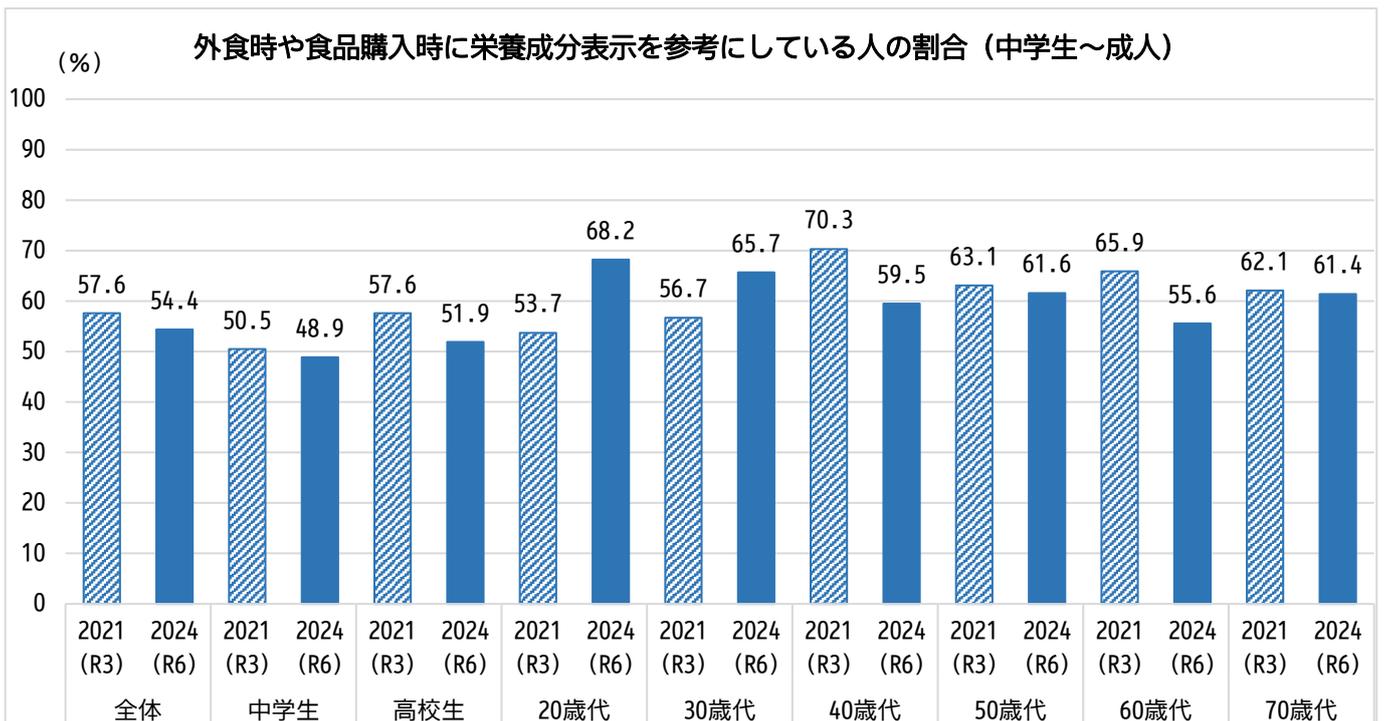
問 子どもに時間と量を決めておやつを与えていますか。(母子票_問11)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート 8

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	外食や食品購入時に栄養成分表示を参考にしている人の割合の増加(中学生～成人)			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
外食や食品購入時に栄養成分表示を参考にしている人(中学生～成人)の割合	57.6%	54.4%	60%	D
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると有意に減少し、悪化傾向にある。 (ベースライン値からの相対的変化-3.2%)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・出前講座 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・こおりやま食の健康応援店事業(~R6まで：外食等栄養成分表示店推進事業) 			
今後の課題	ベースライン値よりも悪化しており、今後も広く市民へ浸透するよう普及啓発を実施する必要がある。中学生・高校生の若い世代に対するアプローチでは、ウェブサイトやSNSなどICTを活用した取組みの充実を図るなど工夫が必要である。また、栄養成分表示の見方や活用方法について、きらめき出前講座など学べる機会の提供が必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

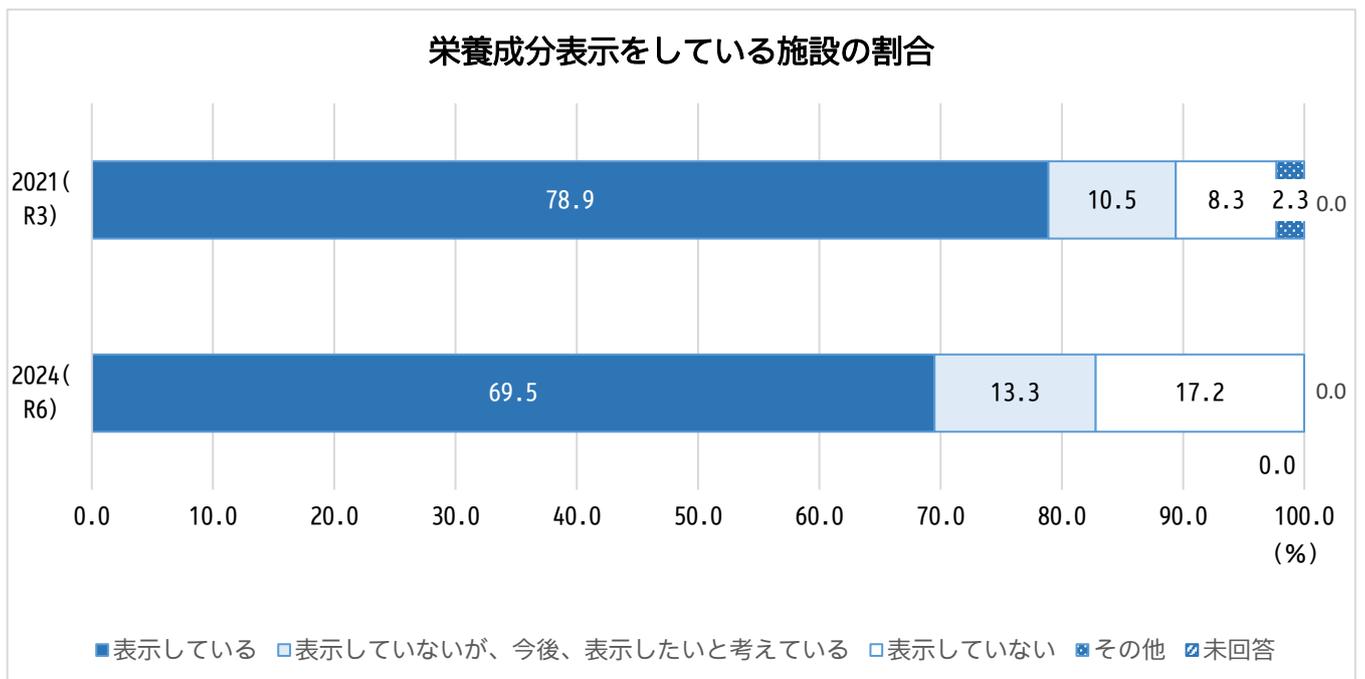
問 外食の時や食品を購入する時に栄養成分表示を参考にしていますか。
(中学生票_問18、高校生票_問17、成人票_問20)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート 9

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	栄養成分表示をしている施設の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
飲食店・施設	78.9%	69.5%	85%	D
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると有意に減少し、悪化傾向にある。 (ベースライン値からの相対的変化-9.5%)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・特定給食施設巡回指導 ・こおりやま食の健康応援店事業(~R6まで：外食等栄養成分表示店推進事業) 			
今後の課題	特定給食施設における割合は90.8%と高いが、飲食店等における割合は7.6%と低い結果となった。(アンケート結果p82) 特定給食施設に対しては給食巡回や研修会等の機会を通し、飲食店等にはこおりやま食の健康応援店事業を通し、栄養成分表示について働きかけを行う。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

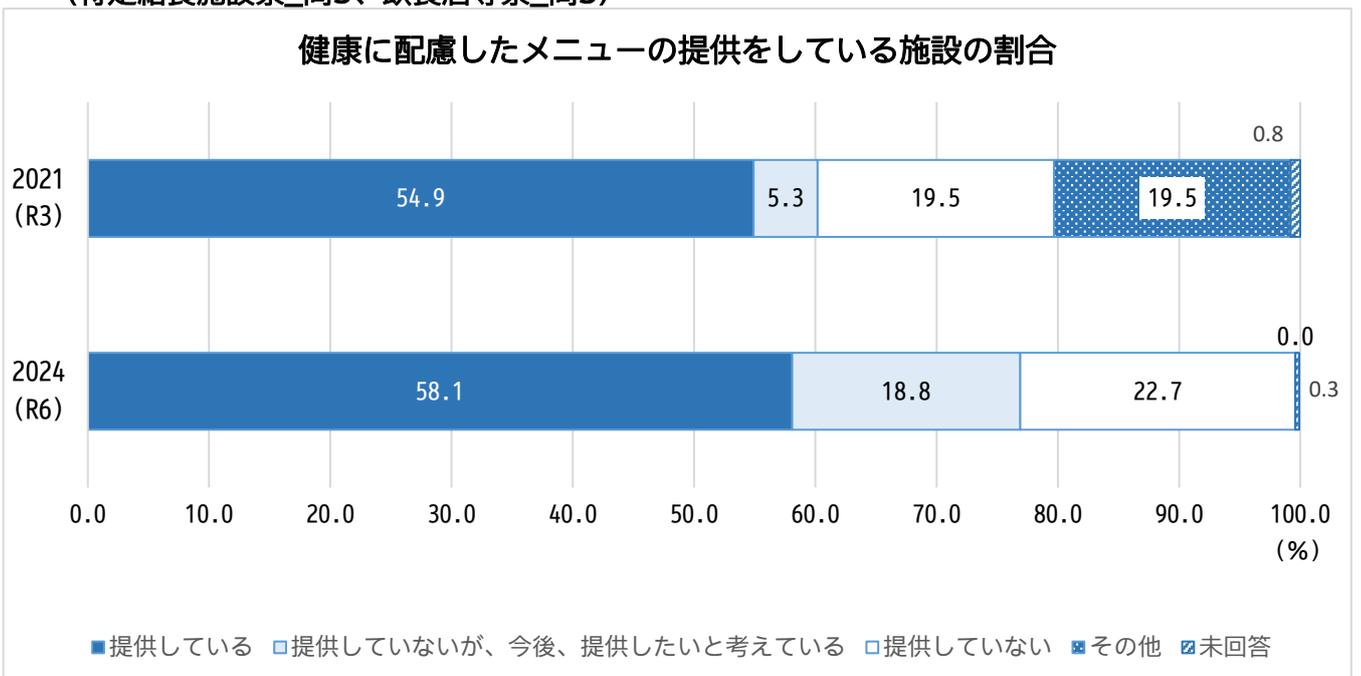
問 食事のメニュー表や惣菜のパッケージ、ポップ等に栄養成分表示をしていますか。
 (飲食店票_問2)
 給食の献立表等に栄養成分表示をしていますか。(特定給食施設票_問2)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート10

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	健康に配慮したメニューの提供をしている施設の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
事業所給食	54.9%	58.1%	60%	C
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	特定給食施設・飲食店等においては、計画策定時のベースライン値と比較すると有意な変化は認められなかった。(片側P値=0.267)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・特定給食施設等巡回指導 ・こおりやま食の健康応援店事業(~R6まで：外食等栄養成分表示店推進事業) 			
今後の課題	特定給食施設等に対しては、巡回指導や研修会等で生活習慣病予防や減塩等の情報提供を継続して実施する。 一般食堂・レストラン等へは、こおりやま食の健康応援店事業を通し、健康に配慮したメニューの提供について働きかけを行う。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

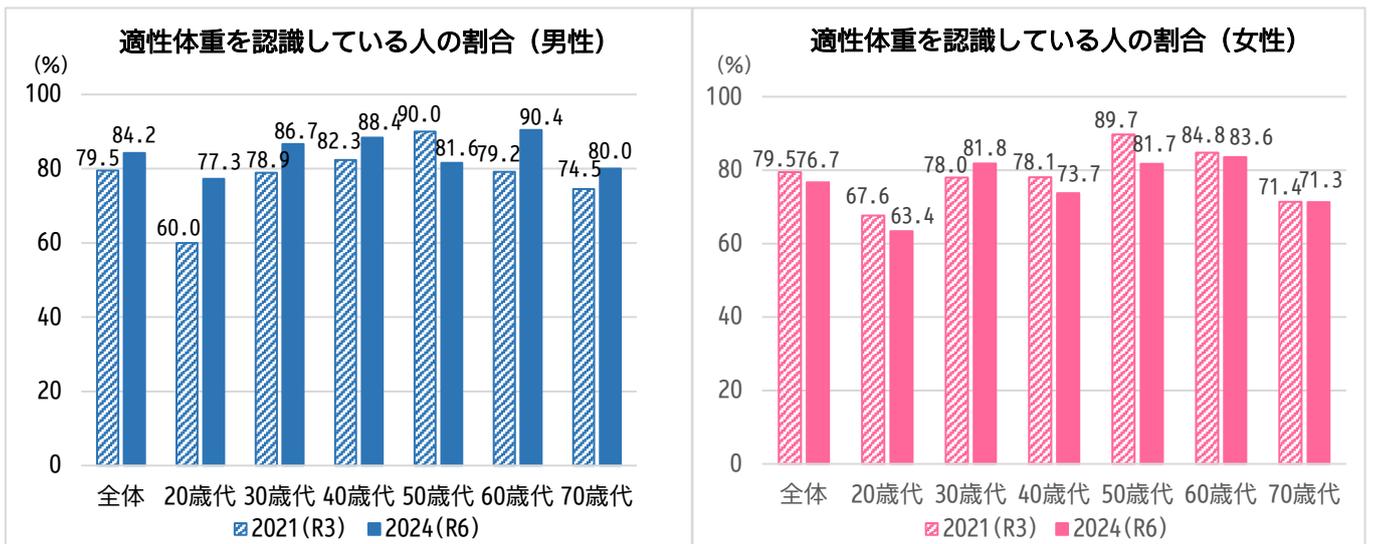
問 健康に配慮したヘルシーメニューの提供をしていますか。
(特定給食施設票_問3、飲食店等票_問3)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート11

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	自分の適正体重を認識している成人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
自分の適性体重を認識している成人の割合	79.5%	79.8%	90%	C
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較して有意な変化は認められず、目標値に達していない。(片側P値=0.436)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・出前講座 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・食生活サポーターによる活動(食生活の講話・調理実習等) 			
今後の課題	全年代・性別の中で20歳代女性の割合が最も低く、理想と考えている体重と適正体重に差があることから、ウェブサイトやSNSなどICTを活用した若年女性への適切な情報提供が必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

問 身長・体重はどれくらいですか。また、理想と考えている体重はどのくらいですか。
(成人票_問1)

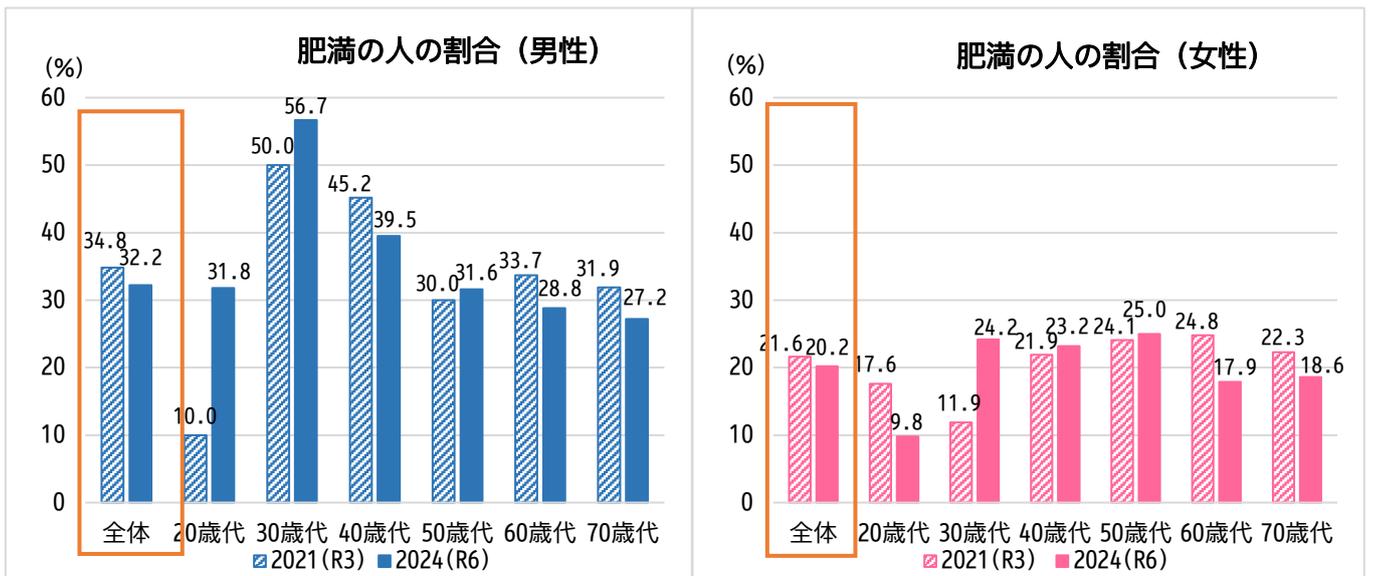


※自分の適性体重を認識している人＝身長と理想体重でのBMI(肥満度を表す体格指数)が適正の人

第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート12

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	肥満の人の割合の減少			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
成人男性	34.8%	32.2%	30%	C
成人女性	21.6%	20.2%	18%	C
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	成人男性・成人女性ともに、有意な変化は認められなかった。 (成人男性：片側P値=0.217、成人女性：片側P値=0.285)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・出前講座 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・食生活サポーターによる活動(食生活の講話・調理実習等) ・イベントやキャンペーン等による周知啓発 			
今後の課題	肥満者が増加する青壮年期を対象とした事業実施により、適正体重の維持や健全な食生活の実践に向けた正しい知識の普及・啓発が必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課、保健福祉部保健所健康政策課			

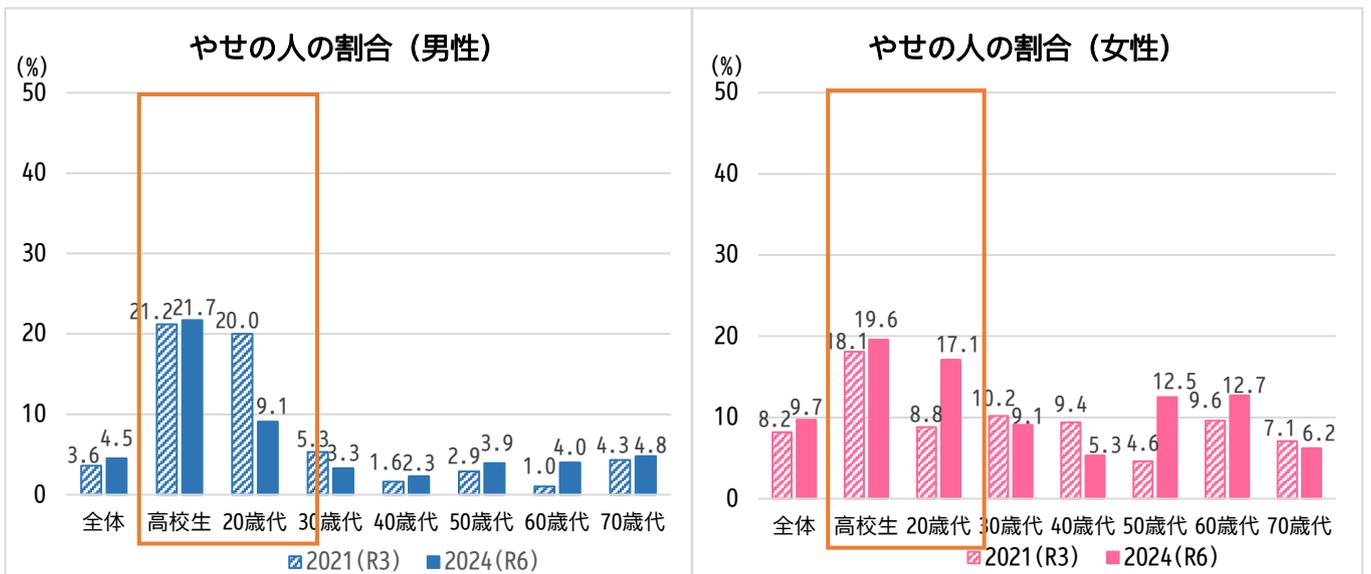
問 身長・体重はどれくらいですか。(成人票_問1)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート13

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	やせの人の割合の減少			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
高校生～20歳代	19.1%	20.3%	15%	C
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較して有意な変化は認められず、目標値に達していない。(片側P値=0.296)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> リーフレット(計画市民版等)の配布 食生活サポーターによる活動(食生活の講話・調理実習等) 			
今後の課題	全年代の中でも高校生はやせの割合が高く、今回の評価からも減少傾向が見られないことから、適正体重、バランスのよい食事や食事の適正量などについて、ウェブサイトやSNSなどICTを活用した正しい情報提供が必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

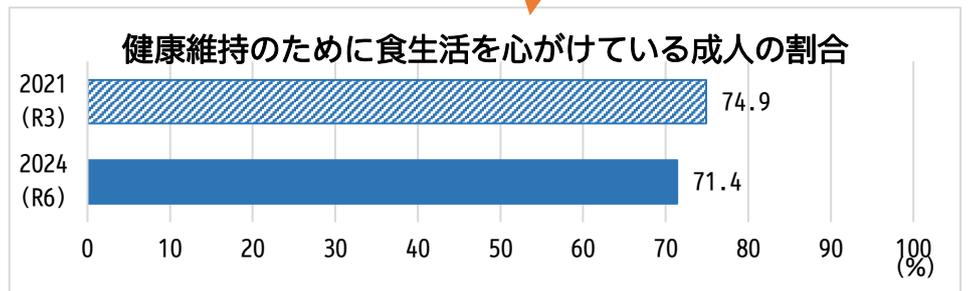
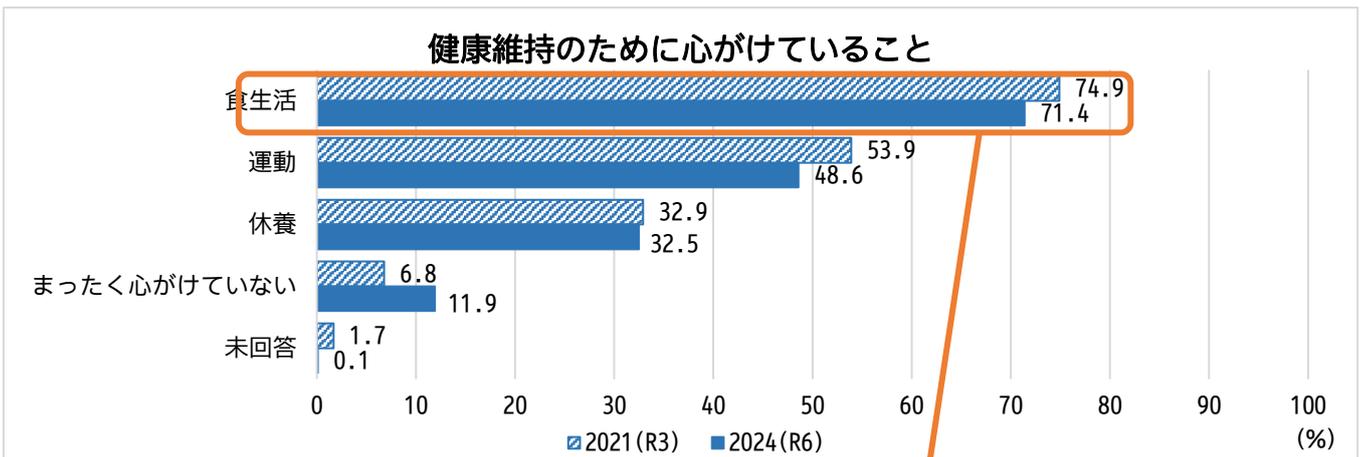
問 身長・体重はどれくらいですか。(高校生票_問1、成人票_問1)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート14

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	健康維持のために食生活を心がけている人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
健康維持のために食生活を心がけている成人の割合	74.9%	71.4%	80%	D
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると有意に減少し、悪化傾向にある。 (ベースライン値からの相対的変化-3.5%)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・出前講座 ・リーフレット(計画市民版等)の配布 ・食生活サポーターによる活動(食生活の講話・調理実習等) ・こおりやま食の健康応援店事業 ・ベジライフ推進事業 			
今後の課題	50歳代以上は健康維持のために食生活を心がけている人の割合が7割を超えているが、20歳代～40歳代の若い働き世代は6割前後と、食生活への関心が低い傾向が見られる。(アンケート結果p12) 将来の生活習慣病の発症を予防するためにも、若い働き世代から食生活への関心を高めるための働きかけが必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

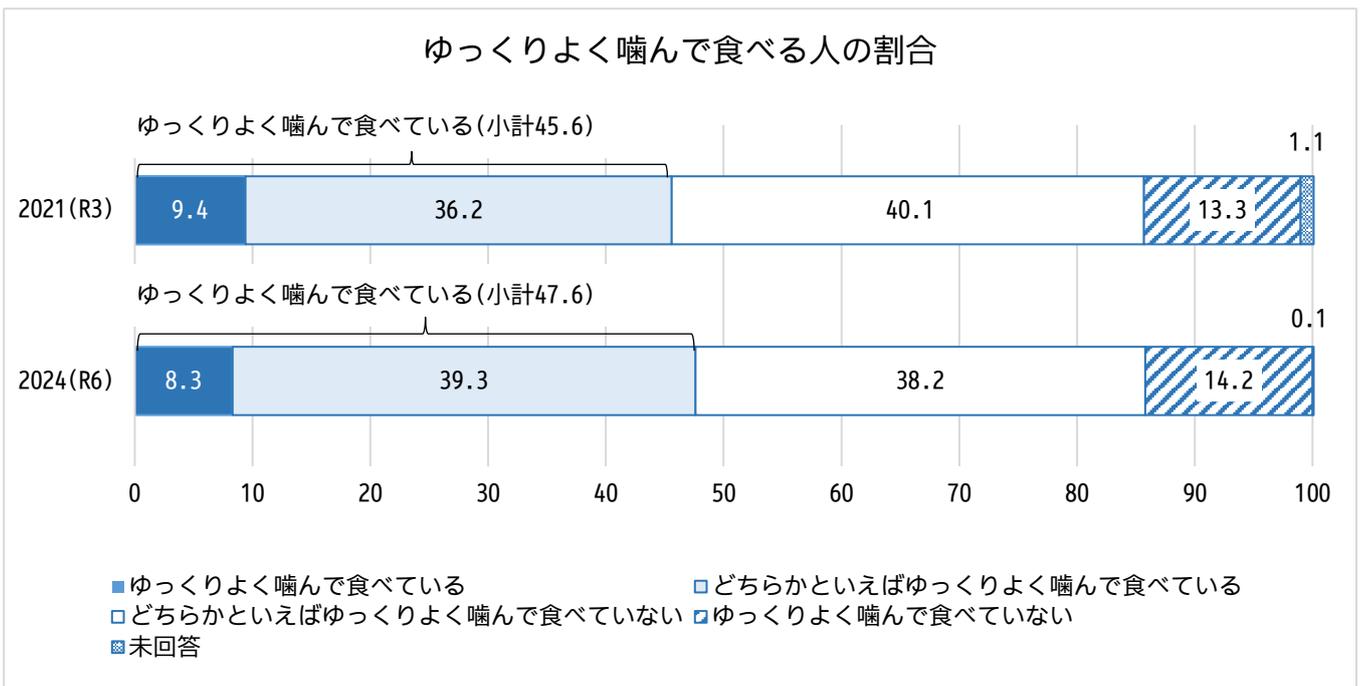
問 健康を維持するため、どんなことを心がけていますか。(複数回答)(成人票_問3)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート15

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	ゆっくりよく噛んで食べる人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
食事の時に食べ方(よく噛むなど)を意識している人の割合	45.6%	47.6%	55%	C
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると有意な変化は認められず、目標値に達していない。(片側P値=0.191)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育・歯科教室・相談等 1.6歳児健診・3歳児健診時の栄養指導、リーフレットの配布等 リーフレット(計画市民版等)の配布 食育推進ボランティア派遣事業 			
今後の課題	健康教育やリーフレットの配布等を通して、引き続き周知啓発を図る必要がある。 また、ゆっくりよく噛んで食べる習慣は幼少期から身に着けることが重要であることから、幼児健診や食育推進ボランティア派遣事業などのあらゆる機会を活用する必要がある。			
担当所属	こども部こども家庭課、保健福祉部保健所健康づくり課			

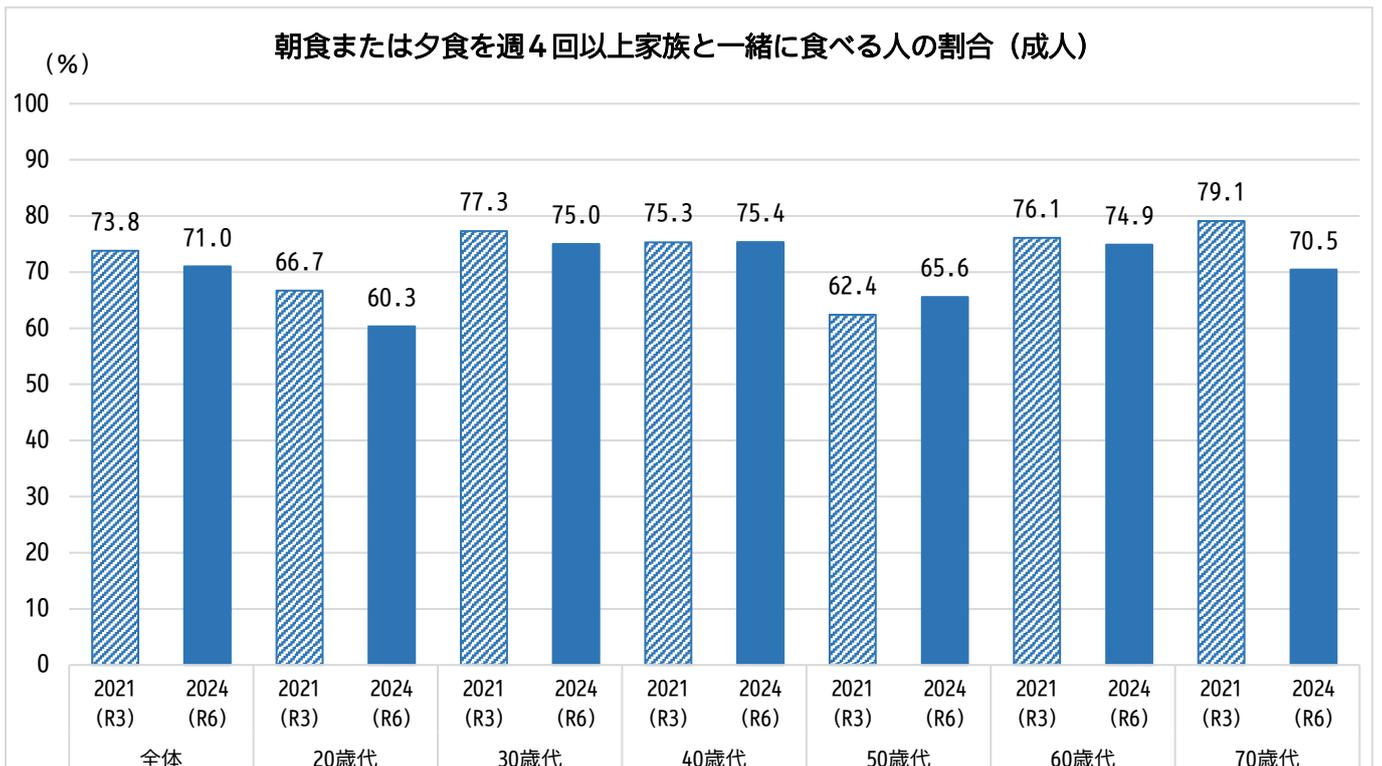
問 食事の時など、ゆっくりよく噛んで食べていますか。(成人票_問15)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート16

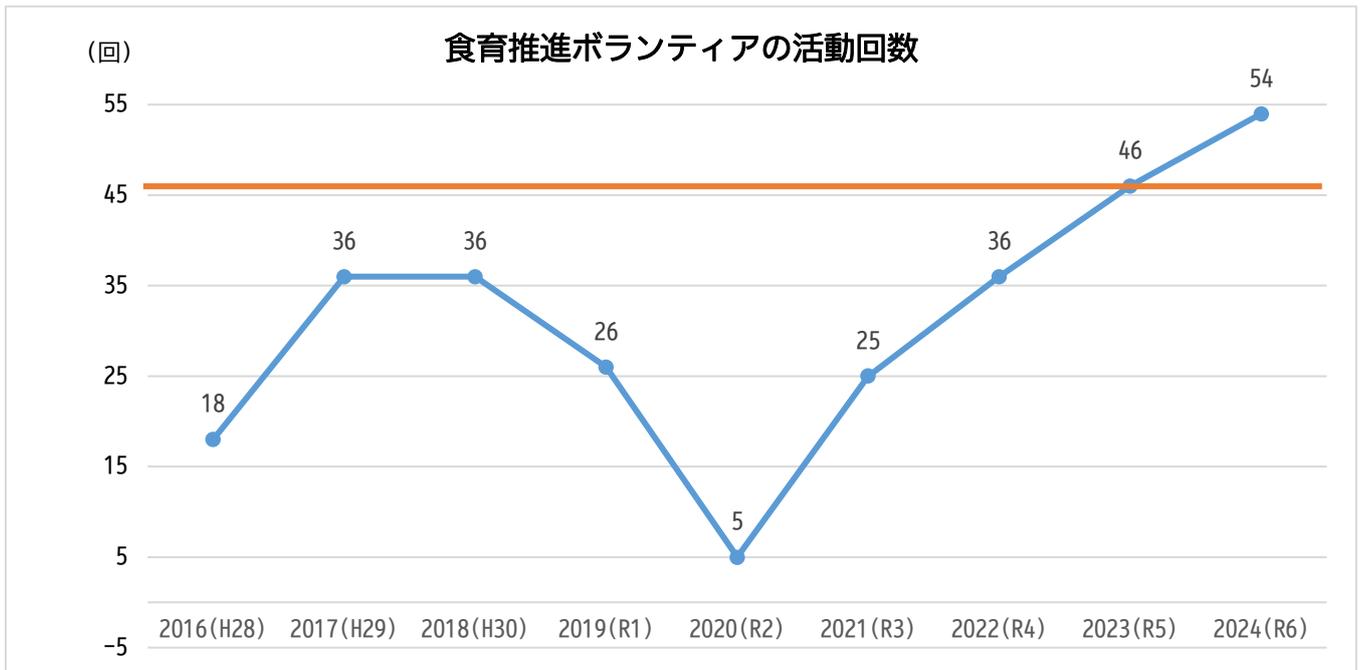
推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	朝食または夕食を週4日以上家族と一緒に食べる人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
朝食または夕食を週4日以上家族と一緒に食べる人の割合	73.8%	71.0%	90%	C
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると有意な変化は認められず、目標値に達していない。(片側P値=0.086)			
関連する取組	リーフレット(計画市民版等)の配布			
今後の課題	家族の状況などにより一緒に食事をするのが難しい場合もあるが、できるだけ共食につながるよう、より共食の大切さを周知啓発することが必要である。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

問 朝食や夕食を家族と一緒に食べることは、どのくらいありますか。(成人票_問16)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート17

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	食育推進ボランティアの活動回数の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
食育推進ボランティアの活動回数	25回	54回	45回	A
調査名	実績			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると29回増加しており、目標値を達成している。 (相対的变化+116.0%)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・食育推進ボランティア活動 ・食育推進ボランティアスキルアップ研修会 			
今後の課題	年々依頼が増え、それに伴い活動回数も増加しているが、ボランティアの登録者数の減少・高齢化が進んでいることが課題である。 R5年度からは、新規ボランティアを募集しており、今後も募集をかけ、新規ボランティアの育成に力を入れていく必要がある。			
担当所属	保健福祉部保健所健康づくり課			

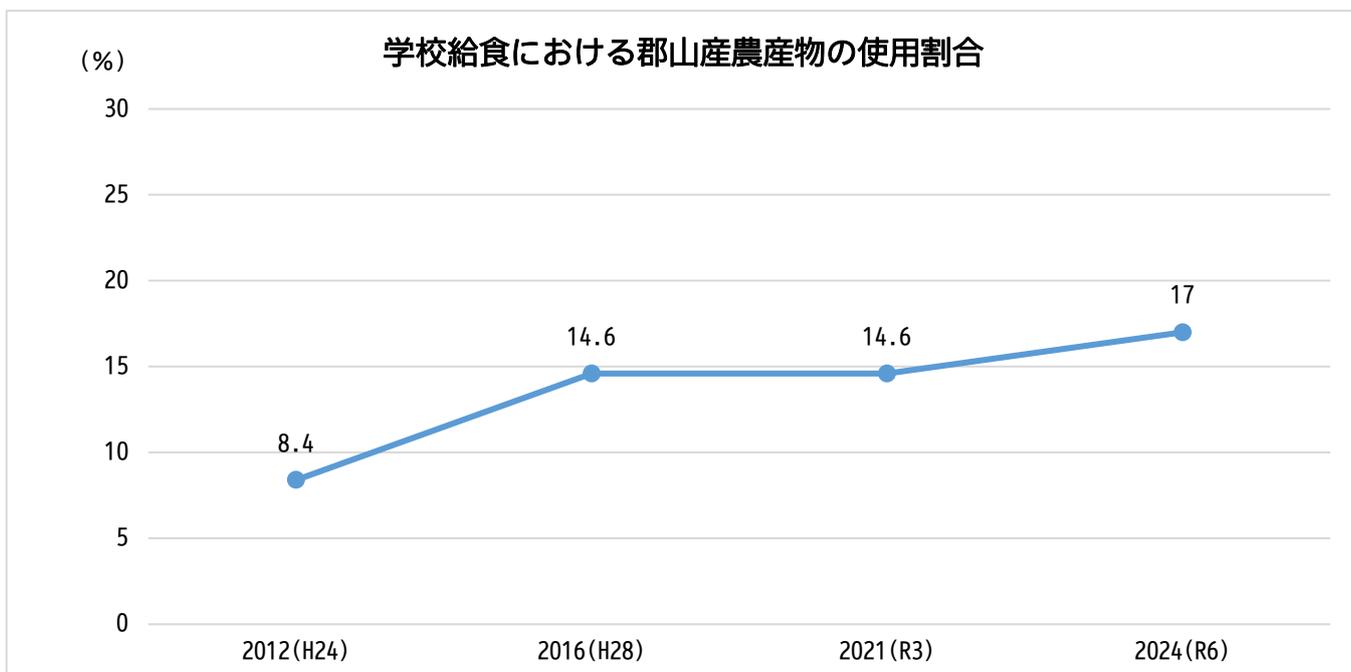


第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート18

推進の方向性	保育所・幼稚園・学校における食育の推進			
目標項目	栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数	-	月7回	月12回以上	E
調査名	実績			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値がなく、目標値には達していないため、評価困難とする。			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食 ・栄養教諭等派遣事業 			
今後の課題	今後も目標に向け、地場産物に係る食に関する指導の実施について、研修会等で周知を図る。			
担当所属	学校教育部学校管理課			

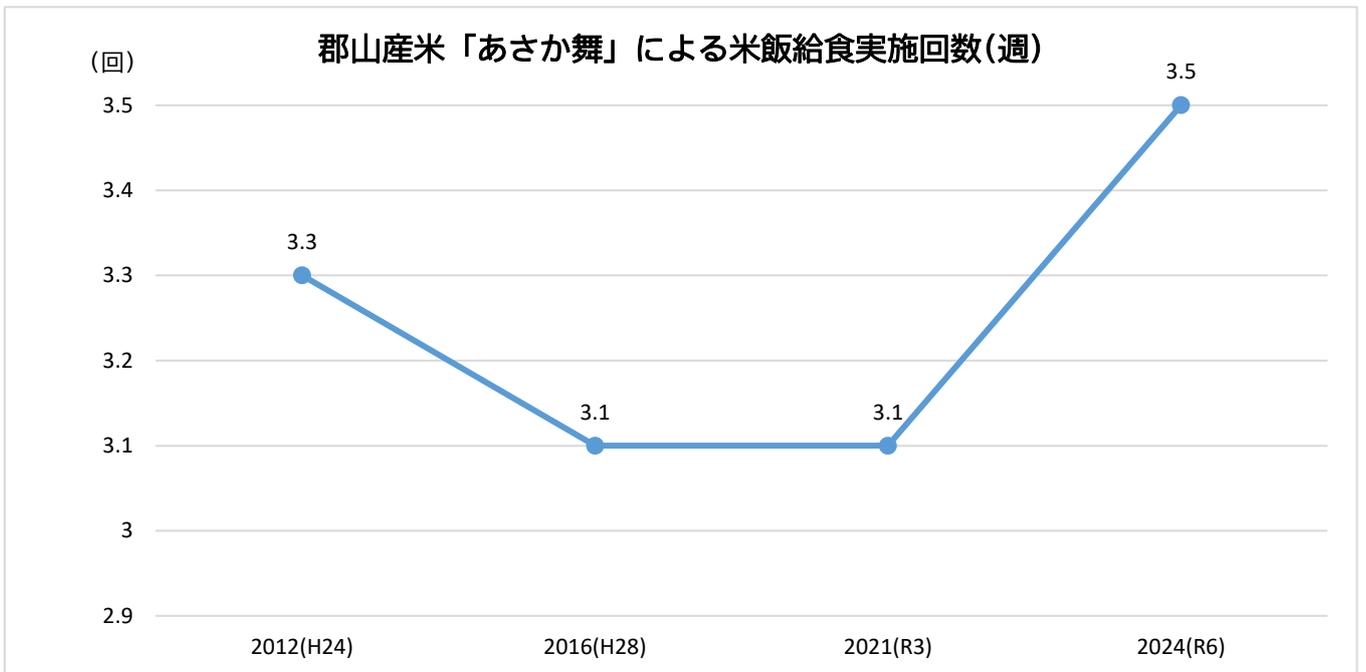
第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート19

推進の方向性	保育所・幼稚園・学校における食育の推進			
目標項目	学校給食における郡山産農産物の使用割合の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
学校給食における郡山産農産物の使用割合	14.6%	17%	20%	B
調査名	学校給食地場産物活用状況調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると増加が見られ、目標値に達していないが、改善傾向にある。 (ベースライン値からの相対的変化16.4%)			
関連する取組	・学校給食			
今後の課題	県産品の使用割合は、平成28年度が26.0%、令和6年度が45.5%と19.5%上昇している。郡山産農産物は通年での量の確保が困難であり、限られた給食費の中で、使用量の大幅な増加は難しい。今後も献立の検討や価格の比較を行いながら、郡山産農産物の使用を推進していく。			
担当所属	学校教育部学校管理課			



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート20

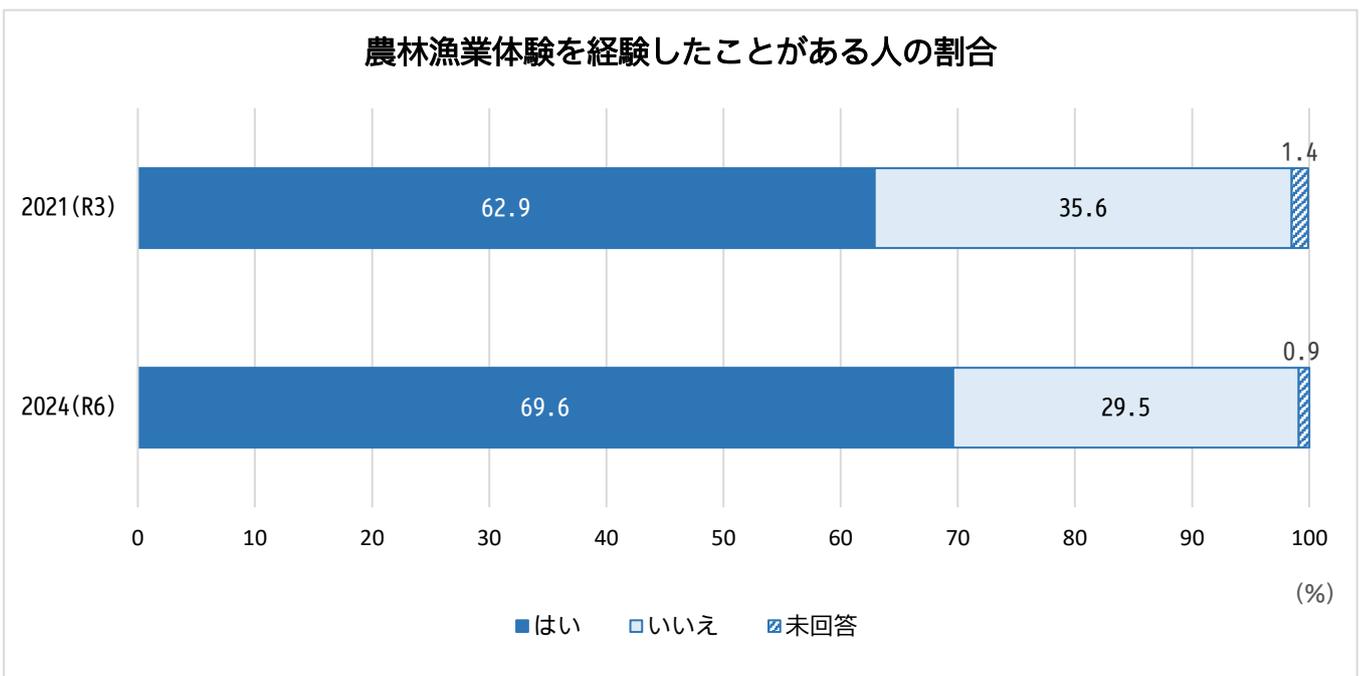
推進の方向性	保育所・幼稚園・学校における食育の推進			
目標項目	郡山産米「あさか舞」による米飯給食実施回数(週)の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
郡山産米「あさか舞」 による米飯給食実施回数(週)	3.1回	3.5回	4回	B
調査名	実績			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると増加が見られ、目標値に達していないが、改善傾向にある。 (ベースライン値からの相対的変化12.9%)			
関連する取組	・学校給食			
今後の課題	実施回数に関して、米の価格や他の食材の価格及び給食費を考慮して回数を決めており、令和4年度は週3.3回、令和5年度からは週3.5回実施している。今後も給食にあさか舞の使用しながら啓発に努めていく。			
担当所属	学校教育部学校管理課			



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート21

推進の方向性	食と農の連携や環境と調和のとれた食育の推進			
目標項目	農林漁業を経験したことがある人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
今までに農林漁業を経験したことがある人の割合	62.9%	69.6%	65%	A
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると有意に増加し、目標値を達成している。 (片側P値=0.001)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい体験農園(園芸畜産振興課園芸振興センター) ・学校農園奨励事業(郡山市民食糧問題懇話会) ・キッズガーデン(郡山農業青年会議所) 			
今後の課題	市民が食と農に対して関心を持ち理解を深めるために、農業体験の機会の提供や周知啓発を継続していく必要がある。			
担当所属	農商工部園芸畜産振興課、農業委員会			

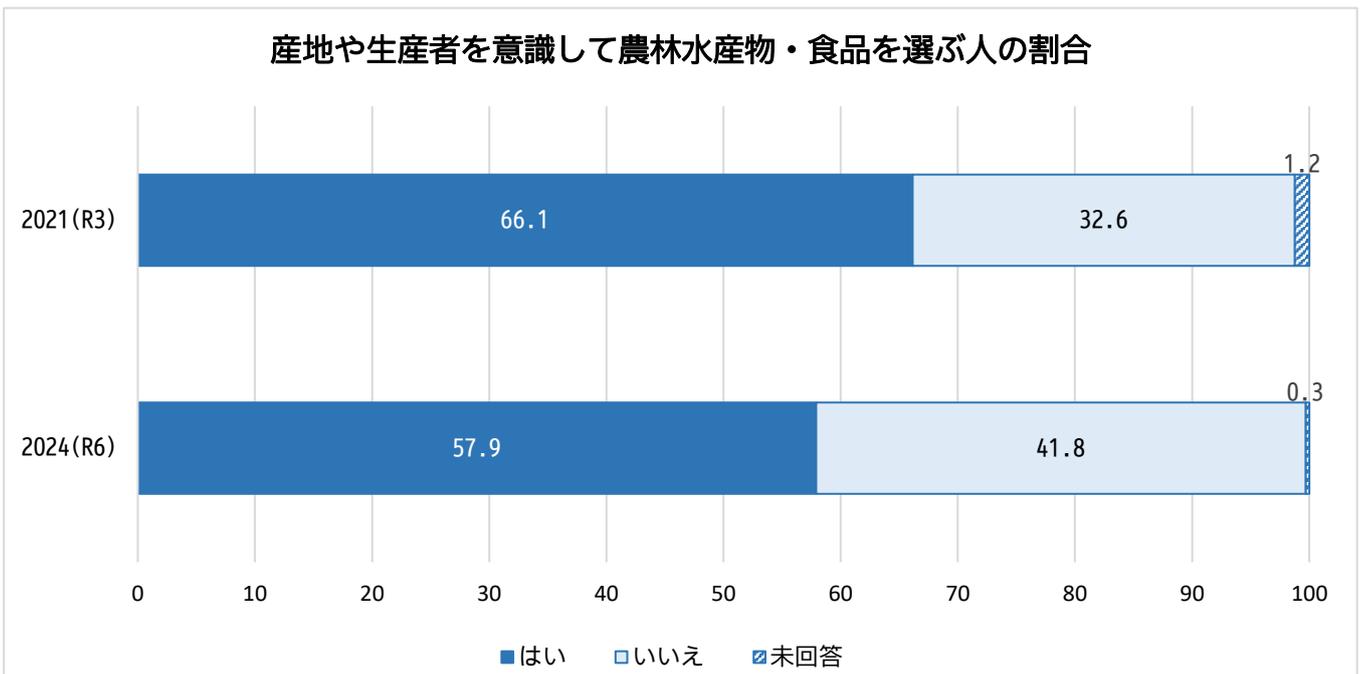
問 今までに農林漁業体験を経験したことがありますか。(成人票_23)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート22

推進の方向性	食と農の連携や環境と調和のとれた食育の推進			
目標項目	産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ人の割合	66.1%	57.9%	70.0%	D
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると有意に減少し、悪化傾向にある。 (ベースライン値からの相対的変化-8.2%)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・こおりやま産業博の支援 ・特産品の開発支援と首都圏などでの販売イベントでのPR ・市場料理教室 ・首都圏や姉妹都市などで開催する観光物産フェア等でのPR ・フロンティアファーマーズ(生産者のインタビュー記事・写真掲載) ・毎月8日『こおりやま「お米の日」』に合わせた各種PRや米粉の普及推進 			
今後の課題	産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ人の割合が高まるよう、引き続き本市産農林水産物の魅力を発信し、周知啓発等を図る必要がある。 また、観光と物産を連動したPRやふるさと納税との連携も行う。			
担当所属	農商工部農業政策課、農商工部園芸畜産振興課、農商工部総合地方卸売市場管理事務所、文化スポーツ観光部観光政策課			

問 農林水産物や食品を購入する際に産地や生産者を意識して選んでいますか。(成人票_21)



第四次郡山市食育推進計画に関する目標・評価シート23

推進の方向性	家庭・地域における食育の推進			
目標項目	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ人の割合の増加			
指標	策定時の ベースライン値 2021(R3)年	現状値 2024(R6)年	目標値 2025(R7)年	評価
産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ人の割合	51.6%	37.2%	55%	D
調査名	2021(R3)健康づくり・食育に関するアンケート調査、2024(R6)食育に関するアンケート調査			
指標の評価・分析	計画策定時のベースライン値と比較すると有意に減少し、悪化傾向にある。 (ベースライン値からの相対的変化-14.4%)			
関連する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別栽培農産物」、「有機農産物」生産農家の育成・支援 ・ウェブサイト等を通じた環境に配慮した農林水産物・食品の周知 			
今後の課題	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ人の割合が高まるよう、引き続き環境に配慮した農林水産物・食品の魅力を発信し、周知啓発等を図る必要がある。			
担当所属	農商工部園芸畜産振興課、保健福祉部保健所健康づくり課			

問 農林水産物や食品を購入する際に環境に配慮したものを意識していますか。(成人票_22)

